



Hawaiian Airlines Showcased 85 Years of Retro Uniforms at Honolulu Fashion Week On Nov. 8, 2014

ホノルル・ファッション・ウィーク

お正月をハワイで過ごされた方も多いのではないでしょうか。アメリカ合衆国ハワイ州はアメリカの州で唯一アジア系人種が総人口の40%を占め、フィリピン系アジア人の次に多い人種が日系であり、また日本人はハワイの観光業になくてはならない存在です。入れ替わり立ち替わり行われる、日本人新婚カップル達の写真撮影を横目に、日本人買い物客で賑わうホノルルで、昨年11月史上初の「The First Annual Honolulu Fashion Week (HFW)」が開催されました。

ホノルルマガジンが主催するHFWは、ホノルル生まれで日系の母をもち「ニューヨーク・ファッションウィーク(NYFW)」で活躍するプロデューサーの Lynne Hanzawa O'Neill と、NYFW における美術と照明で高い評価を得ているBLT Theatrical LLCのデザイナー Gordon Linkをはじめ、ニューヨークとホノルルを拠点とする制作陣により大成功を収めました。ランウェイではハワイ出身のファッション・デザイナーの新作や、ハワイ先住民の芸術を取り入れ、海辺で楽しめるお洒落を提案するなど斬新な構成でした。ほぼ招待客のみ入場が許されるNYFWのランウェイと異なり、HFWでは招待状なしにランウェイの鑑賞ができ、観客はホノルルにおける新しいエンターテインメントを存分に楽しんでいました。特に盛り上がりを見せたのは、ハワイアン航空の制服を1943年にさかのぼり紹介したランウェイです。ハワ

イアン航空が歩んできた歴史を讃えているかのように、年代ごとの制服を着たモデルが登場するたびに大きな拍手がおこりました。

その独創的なファッションを支えるのは、ハワイ特有の自然と文化と歴史です。ホノルルを少し離れると、火山活動と豊富な水資源が形成した、急勾配の山々が目の前に広がり、太平洋の真ん中の大波が打ち付け、地球と自然のみなごる生命力が身体に押し寄せます。ポリネシアに属するハワイでは、アメリカ本土と全く異なる言葉、舞踊や音楽が生きていて、ハワイ先住民の血族でなければ住めない地域や、入ることすら許されない島も存在します。

そして、ハワイと日本が共有する歴史といえば真珠湾攻撃です。1941年12月7日日曜日の朝も、真珠湾には明るい太陽の光が溢れ、爽やかな東の風が吹き、心地よい波の音が聞こえていたことでしょう。戦争の名の下、個人の思いとは裏腹に、人が人を殺したという記録を前に、照明家ができることは何か考えました。HFWが「The First Annual」というように、ホノルルにとって新しい歴史の幕開けを迎えた今、ハワイアン航空のランウェイのように、未来の人類が過去を拍手で讃えることのできる現在を作り、光を使って歴史を後世へ語り継ぐことが、今を生きる私たちの使命でしょう。